

昭和四十九年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
行政一般通告質問	二
流山源次郎君の質問、当局の応答	二
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	一〇
栗原一雄君の質問、当局の応答	一八
辻田実君の質問、当局の応答	二五
休会	三三
散会	三三
本日の会議に付した事件	三四

一、昭和四十九年六月十四日（金曜日）午前十時
二、館山市役所議場

一、出席議員 二十五名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流山 源次郎	四 番	鈴木 木
五 番	近藤 好雄	六 番	栗原 一雄
七 番	渡辺 昭夫	八 番	石井 武敏
九 番	辻田 実	〇 番	渡辺 軍治郎
一 番	山本 昇	一 番	藤田 益治
一 三 番	五十嵐 昇	一 四 番	伊賀 多朗
一 五 番	和田 一郎	一 六 番	辻井 謹爾
一 八 番	安西 益男	一 九 番	島野 茂樹郎
二 一 番	鈴木 市蔵	二 二 番	田村 源治郎
二 三 番	菊井 敏博	二 四 番	西村 真次
二 五 番	安沢 徳順	二 七 番	望月 照正
二 八 番	田中 禄郎		
一、欠席議員 四名			
二 〇 番	君塚 喜三	二 六 番	飯田 義男
二 九 番	秋山 六三郎	三 〇 番	遠山 ヨネ子

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和四十九年六月十四日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時二分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十四名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行ないます。

締め切り日の六月十日正午までに提出のありました議員、要旨並びにその順序はお手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行ないます。なおこの際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、きょうは通告者のみの質問といたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。三番議員 流山源次郎君

（三番議員 流山源次郎君登壇）（拍手）

○三番（流山源次郎君） 私は、次の三点について質問いたしたいと思ひます。

まず、第一点といたしまして、宅地造成に対する市の行政指導についてお尋ねいたします。

広報たてやま三月号に、「自然破壊から緑を守ろう」という見出しで、その内容といたしまして、抜き書きしてまいりましたが、

「土地開発などで、私たちの目の届かないところで自然破壊が進み、年々緑が失われています。」さらに、「緑は、私たちに新鮮な空気を提供してくれるだけでなく、土砂の流出を防ぎ、災害から私たちを守ってくれます。」という非常に市民にとりましてはありがたいような、あたたかいような文面でございます。

さらに、国、県から植林事業に対する補助金の支給があり、市としても緑化推進事業としてツバキの苗木等に五〇％以内の助成金を出すということで、市民に緑化の必要性を非常にPRしてあるのでございます。

しかしながら、館山地区におきましても、土地開発の問題につきましましては、実態面においてこの趣旨と相反するような宅地開発が進められておるような現況に思えることが二、三ございしますがこれにつきまして市としていかなるお考えであるか。宅地の開発による住宅地の出水被害や、現在開発を進めている山林等の問題に關して、市として再調査の必要があると思うが、それに対する考え方を示していただきたい。

すでに、許可されました造成地におけるところの下水溝の不備等によって、少量のちよつとした雨が降っただけで、その地域住民が下水等についてそのつど被害を受けておる現状が船形地区に於いては見られますが、これに対処するところの下水改良を実行する意思はないかどうか。今後の市の考えをお聞かせをいただきたいと思ひます。

以上の二つの点と関連いたしまして、館山市としては土地の開発についてただ無制限に許可を与えておるのか。それとも館山市においては、こういう問題に対処するところの権限はないのかどう

か。それをお聞かせいただきしたいと思います。

第二点といたしまして、し尿処理場における処理能力の見通しについてでございます。藤原処理場はたびたび市当局より説明のあるとおり、七対四の比率において現在収容能力がほとんど限界に達しておると言われておりますが、現在の藤原処理場以外に他の処理場の建設の見通しはどのように進んでいるか。今後の見通しを聞かしていただきたいと思ひます。

右、事項に関連いたしまして、簡易水洗方式便器の件でございますが、これは現在におきましては、にこない衛生的だというところで一歩進んだ便器でございますが、これは各業者とも非常に問題があると思ひますが、ただ私がここで市に問ひたいことは、処理能力が手いっぱいの現在において、たとえ、簡易水洗方式にしてもコップ一ぱいの水がふえるという事態になつて、その収容能力の問題について大きな問題があるのではないかということでございます。他の市町村におきましてはこれについて制限を加えたというような新聞報道もされておりますが、館山市としてはこれに対してどのようなお考えか。また所管課としてこういう問題について研究したことがあるかどうか。お聞かせいただきたいと思ひます。

第三点といたしまして、農漁業家に対する設備、運転資金に対し、中小企業同様の市として独自のこれに類する貸し付け制度、計画は立てられないかどうか。

その三点をお伺ひたいと思ひます。時間の関係もございまして、市としては簡単明瞭なお答えを希望いたします。(拍手)

(市長本問 譲君登壇)

○市長(本問 譲君) ただいまから通告質問された四名の議員の方々に對しまして御答弁を申し上げたいと存じますが、くわしいことにつきましては課長等をして答弁させますので、あらかじめお含みおきをいただきたいと存じます。

流山議員さんの御質問はまことに當を得た質問と考へておりますが、お考えのように宅地の造成につきましては今、全国的に急速にやっておるわけでございますが、これの大型とか、山林とかの造成につきましては県の条例もございまして、市としては市の指導基準等によりまして事前にいろいろ協議して調査の上、慎重にあらゆる角度から十分検討を加えておるわけでございますが、今後とも間違ひのないように慎重にやってまいりたいと考へておる次第でございます。

それから、宅地造成地の不備によるその責任はどこにあるか。こういうような御質問でございますが、これはもちろん造成をした業者が、私は責任を持つべきじゃないかと、こう考へておりますが、これに對しては市のほうでは十分なる指導をし、住民に被害を及ぼさないように指導をしてまいりたいと考へておる次第でございます。

それから、し尿処理場の問題につきましては、これは御指摘のように、し尿処理場は、まず何と申しますかね。限界に達した。こういうことは事実でございます。私どもも非常に苦しんでおるわけでございますが、これにつきましては、館山市独自でやらなければならぬと思ひておりました。幸ひにして、広域市町村圏においてやるといふことで土地買収の予算も組んであるし、

この前の議会でどなたかの質問にお答えしたように、あそこは三芳と丸山と館山市の境のところに建設すべくやっておりまして、これに対しては住民は反対はしておるわけでございますが、住民代表者を埼玉県等に近代的のものを見学に行つていただいたりなんかして理解を求めてあるわけですが、何といつても、し尿処理場という名前を聞いただけでも反対だという人もおるし、なかなか皆さんを説得するに時間がかかるわけですが、引き続き地域の方々と懇談をしてなるべく早い機会に、その地点に相当大きな規模でやるわけでございますが、これは館山市と白浜、千倉、丸山それから三芳ですか、それらの地区をそこで消化をする。こういうようなことになっておりますが、なかなかこれが進展しませんで苦慮しておるわけでございますが、とにかく、きょうも広域市町村圏の事務局長にハッパをかけてやっただんですが、条件があるなら出さない。この際、そういう住民の方には被害のないようになちやんとしたものをつくるからということで、地区別の住民に集まってもらつてよく懇談したりということできようも申しつけたわけでございます。

現在、そのほか館山市独自としては現在計画をしております。広域市町村圏にお願いしてそれなるべく早くつくるようにいたしたい。こういうふうに考えておる次第でございます。

それから、水洗便所の規制ですか、これもおっしゃることも無理のないことだと思います。処理場の限界に達したところに、水洗便所がどんどんふえていくことは矛盾していくことになるわけでございまして、御心配くださったことは本当にありがたいことでございますが、今の規則では水洗便所をやらせないという

ようなことはできないようですね。またこれを制限を加えるということもちょっとできないようでございますが、これはやはり今の新しい処理場を考えながら、今のままやるほかはないと存ずるわけでございます。

それから、農漁業の設備資金の貸し出しの制度を設けたらどうか。こういうことでございますが、現在商工業者にやっておる以上には有利な農漁業者に対しては制度があるわけでございますのでそれを御利用願つていただきたいと思います。市ではそのためこういう制度を設ける考えは、まことに申しわけないと思ひますけれども、そういう考えは現在持つておりませんので、県等ですらやっておる商工業者より有利な貸し出し制度がございまして、これは流山さんも御承知だろうと思いますが、そのほうをひとつ御利用いただきたいと存ずる次第でございますが、以上、何か落ちたところもあるかと思いますが、また落ちたところについては答弁いたしますので、よろしくどうぞ。

○三番（流山源次郎君） 先ほどの質問でございしますが、ある不動産業者によるところの船形の山林の宅地開発によりまして、現在におきましても五〇ミリ以上の雨が降った場合には、必ず下水等の不備によつて下流の民家が床下浸水をする。そのたびに、各住民におきましては私どものほうにこの被害はどうするんだということ、たびたび苦情が持ち込まれたのでございます。

これに対して、市としてはそのつど現地の調査をされまして、またいろいろ対策を立ててくれるようでございますが、なにぶんにも、これは某不動産業者によるところの設備の不備とか、そういうものが関連いたしておるためええ上、なかなか地域住

民の要望にこたえられないということですが、これに對しまして、市の所管課といたしましてはどのようなお考えがござい
ますか。

○農業委員会事務局長（岩崎一郎君） ただいまの御指摘の件、私
ども十分調査いたしております。それにつきまして、一たん工
事を中止してから一年余経過しておると思っています。その間、御指
摘のような被害状況が確かに出ております。そのつど、業者に申
し入れているわけでございます。

今日までその経過を見ますと、何ら着工されておらないとい
うこととございます。昨日ですか、本社の方を連絡いたしまして私
どものほうに出頭していただいたわけでございます。

それで、関連いたします排水路のこととございますので、土木
課長さんと立ち会いのもとに従来の放任をただしたわけでござい
ます。やはり企業内容等の事情によりまして申しわけなかった。
ひたすら申しわけないということと申しておりました。それから
それでは困る。現実に被害が起きて、しかも放任されたままだ。
これを何とか着工するだけの準備なり、誠意なりはできないのか
ということとを申し入れたわけでございますが、やはり間に元の地
主の市農協が入っております。農協さんと地元の方々の折衝経過
がございまして、そういったような関係から農協さんと相談し
て、ぜひ地元民の利害関係者との折衝に入りたいというような内
容でございまして、早速それはやってもらいたい。利害関係者と
申しますと、農家組合、水利組合あるいは付近被害をこうむりま
す関係住民もでございます。それらとの間の意思の疎通は十分やっ
てもらいたい。

それともう一つは、施行にあたっては、最もいい方法を取られ
るように必ず土木と協議の上、土木の指導のもとにやってもらい
たいということを申し入れたわけでございますが、これらにつき
ましては、全部承諾して早速にでも着手したい。このような旨を
言明しておりました。

以上、御報告申し上げます。

○三番（流山源次郎君） ただいまのお答えによりまして、市とし
て大体某不動産業者に対しての現在の折衝の過程は十分了解した
のでございますが、この問題は、昭和四十七年度のあの大雨によ
るところの船形町の広範囲に達するものが冠水状態を受けたとい
うことの問題から進んで、もう二年間というべきものは各地元の
議員なり、またわれわれといたしましても再度この善処方を市に
申し入れてあるのでございますが、本日まで現在の説明ではこれ
という手も打てなかったわけでございますが、もし今日話し合っ
て結局不動産業者のほうでこのままではもうだめだ。一応話だけ聞
いておきますということと、また今までみたいに延ばされるとい
うようなことがあった場合には、館山市民という立場に対して市
としては独自でこれに対処するところの被害民に対する対策を立て
る考えがあるかないか。お聞かせいただきたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） 排水の不備の問題につきましては、こ
の造成された時点が県条例の制定、改正前の問題で、その当時は
一ヘクター以上につきましては県知事の許可を受けなければな
らないということと市が窓口になりました、ある程度行政指導、
そういった排水面の行政指導をして、そうして申請書を提出した
わけでございます。

一ヘクタール以上ということで、その当時はあの造成地は該当しなかったということで私も知らないうちにあいつた造成が行なわれたということで、その業者も館山市内でほかにもいろいろこういう宅造等も行なっておりますので、とにかく先ほど農業委員会の局長のほうから御説明申し上げましたように、その業者に地元の農家組合等とも話し合せて被害の起こらないような方法で排水の整備をしてもらいたいということをきのう申し上げたわけですが、現在、館山市は〇・三ヘクタール以上につきましては知事の認可を受けなければならないというふうに条例も改正されて、それは市の開発審査会の事前協議書等も提出してもらって、そういったもので、こういった排水面についても市のほうでとにかく末端を整備しなければ、いくら宅造の中を整備しても、特に山間部の造成についてはそこを平坦にするために水が鉄砲水で道路を流れて末端に流れてくるということで、これは国からですけれども、大きな造成につきましては、大きな河川または海まで末端の整備をしたりという、行政指導をしたりというふうなことで連絡がきております。

だから、そういった面からいっても、ほかの県の条例によって行政指導しているほうは末端の整備をしろといっている反面、今までやったものが工事を中止してあるわけですが、そこを末端を市のほうで整備するということになると、なんかおかしい話になってくるということで、なにがなんでも被害を受けないように地元の方たちと話し合せて整備してもらいたいということで、あの個所につきましては市のほうでは改良する意思はございません。

〇三番（流山源次郎君） ただいま、最終回答においては現在のと

ころ市のほうとしては最終的にはまだそういう考えはないという答えてございますが、これは時間の関係もございまして、また将来市としては下水道等の再計画を立てておる様子のようでございますので、これに関連いたしましてまた質問したいと思っております。今の話を聞いておりますと、大体においてこういう事故があったということとは、市の執行部の方たちは十分認めてもらえるところです。ただ、不用意に宅地造成をした。結局、ある程度の基準にかなっておれば、それで宅地造成はできたんだというだけの面においてそういうことをしてしまつて、最後に市民を困らせるという事態が起こってくるということを考えた場合、私としては一点お聞きしたいことは、神作医院より西に面した山岳地帯が現在、地元の方とこれもやはりある不動産業者でございしますが、その方等がこれから宅地を開発しようということとで今話し合いの場が持たれ、また非常にもめておるのでございますが、これに對しまして先般来、地元の議員また私等が市の常備消防に對しての危険度、また交通課に對しましてその危険個所の調査をもう一度やりなおしてくれということをお願いしましたが、その調査結果がございしましたら、お聞かせいただきたいと思います。

〇交通防犯課主幹（岩田 実君） お答えいたします。

流山議員さんから昨年でございしますか、そういったようなお話しがございまして、私のほう船形分遣所がございしますので、現地の模様が一番くわしいわけでございますので、分遣所に命じまして現状を見せていただいたわけでございますが、御承知のように私の消防の任務といたしましては、主として火災の予防、警戒、鎮圧というのがおまな任務でございまして、広い意味の災害とい

場合には若干そういった任務を負託されておるわけでございますが、そんな関係で、また専門的な水害予防というよりな現地の知識もないわけでございますので、私のほうといたしまして、特に現地を見ましてどうの、このとういうようなことは、結論的なことは申し上げられないような次第でございますして、その旨は流山議員さんにお答えしたというふうに考えておる次第でございます。以上でございます。

〇三番（流山源次郎君） 市の交通課の災害係等、また常備消防のただいまの説明でございますが、船形分遣所の職員の方が現地にいらっしゃった。そのときは私も一応現場に立ち会いまして地元民の方と話し合いをされたんですが、そのときに、地元民の方としては非常に切実に自分たちの、なにか災害があった場合には一番自分たちがすぐ被害を蒙るんだということで、現地の説明にあたりまして、また調査にまいられた方も現場を見てなるほどとうなづいておったんですが、結局、結果的には最後には、個人の業者が個人の宅地であって、それを宅地開発するために道路をつくるとか、そういうことについてはある程度さしつかえないという結論が出たように私は伺っておりますが、この件につきまして、同じ所管課であっても私なんかはそれであきらまずに、再度秘書課に対しまして陳情したのでございますが、同じ館山市の中の執行体制にあるところの各主管課でございますが、秘書課といたしましては非常に熱意を持ってくれて、再度にわたって県の当局に対してこの問題はどうかというところで、地元民に対して非常に再度にわたるところの親切に交渉をされ、現在また継続中でございますが、その体制を整えてくれたという

ことでございますが、はっきりいまして、現在まずだれが見ても、あそこの山林というべきものの開発というべきものは、いかなる防災設備をしてもあの道路つきの山林、急傾斜の山林というべきものは、昭和四十七年九月十五日のあの大雨の雨量でなくとも、一〇〇ミリ、一五〇ミリから二〇〇ミリの雨量が降っても危険があるということは、専門の業者も立ち会っておるのでございますが、現在の不動産業者があつた個所において工事を始める前に二、三違つた、かわつた業者がそれを買収いたしましたして、現地を見てこれはだめだということで手を引いたのでございますが、現在の方が無理にそれをおし進めようという空気が非常に見えるのでございますが、これは先ほども私が壇上におきまして読み上げました市の緑を植えるという問題でございますが、緑地化の緑に対する元は木でございますが、その木の伐採というものがただ一本の道をつくるというだけにおいて、非常に前に立つものが木だろが、何だろが全部伐採してしまうというやり方でございますして、また、たまたま常備消防の方なり、交通課の方が調査にまいられたあとにすぐ雨が降って、その個所は埋没してしまう。土砂の流れがある一カ所に起きたということがたびたび起こっておりますのでございまして、この点につきまして市としてはただもうある程度以前に書類が出たんだ。先ほど、土木課長さんのお話しては〇・三ヘクタール以内のもの、個人で行なうところの宅地造成というべきものに對するところの市の見解がございましたが、現在の現地は、実際問題は三ヘクタール以上あるんです。実際測量した場合に、また公園のほうをはかってもはつきりわかるわけです。それが、結局早い話が、その不動産業者はそれをそのま

持ってきたんでは許可にならないということで道をつくる。何をつくる。設備をつくる前に分筆しちゃっているわけです。買う人を集めてその人個人、個人的な名前前で、分筆したものを届けるから、結局、〇・三ヘクタール以上届ける。許可制になっているという法律の網をくぐって個人、個人の届出にしようという非常に悪らつな方法でやってゐるんです。

それで、現在としても地元民としては、そういうような悪らつな相手であるし、話し合い、話し合いといっても非常に不安があるわけです。

それから、土木事務所でございますが、県の出張所でございますが、土木事務所の所長さんが中に入っておるのでございますが、所長さんの考えとしても、ある程度は地元と話し合いなさいというようなことで、実際問題はわれわれが指摘したのがわかっていながらも、結局、話し合い、話し合いで逃げています。結局最後には、ある五大新聞の一つがこれを取り上げまして、現地を調査して新聞で堂々と出したところが、土木出張所長さんはだまっしてしまつて出てこないんです。結局、現在は地元の要望をむこうの業者に伝えてそれで今検討しているという段階ですが、これがそのままだまっして工事が進められてしまった場合には、私が先ほどから何度も口をすっぱくしていておりますところの、宅地造成によつての被害、それ以上にも増したものが宅地造成をする前からあの地点は山からくる鉄砲水のために一〇〇ミリ以上の雨が降ったら国道を乗り越えてものすごい出水があるところなんです。まして、それがそのまま宅地造成された場合には、あの山のふもとに住んでおる方たちは、夜なんか大雨が降った、台風がき

たといつたら安閑として寝ていられないという現状だと思ひますが、このために私としては、所管課が国なり、県なりにあるかわかりませんが、市民のために守るのはあたりまえだと思ひんです。これをなんか市にすがつて、これを解決してもらおうということが長い間の地元民の念願でございますので、私も時間がだんだんなくなつてきて、次の質問もでございますので、この点市としては一応今後の考えを聞かしていただいて先に進みたいと思ひます。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 私どものほうから申し上げます。

いろいろ御質問の点でございますが、現在におきましては宅地の造成等につきましてはいろいろきびしい規制がございます、慎重にやっておるわけでございますが、たまたまそういうものがない当時のものが若干ございまして、今のようなお話しの点もあるようでございます。

それにつきましては、先ほども申し上げましたとおり、権限等の問題につきましては別といたしまして、やはり市内の問題でございますし、十分これは考えていく必要があるということとは考えております。でありますので、開発の問題につきましては私のほうが所管しておりますので、いろいろ今後とも関係の課長さん方と十分練りまして考えてまいりたい。そのように考えておりますので、よろしく。

〇三番（流山源次郎君） ただいまのお話し、ある程度よくわかりましたが、今後、入梅時期に入りますし、台風時期がだんだん近づいてくるこれからの季節でございますので、なるべく地元民の要望というものをくんでいただきまして、今後の行政指導に願ひしいと思ひます。

それから、時間がだんだんなくなってきますし、先ほどのし尿処理の面でございますが、市長さんが先ほどおっしゃったとおり次の処理場の問題について、いろいろ市としても折衝して努力しておるということでございますが、ただ私が言いたいことは、無制限に簡易水洗便所を新しく建てる家とか、現在の人が簡単にできるということとでどんどんそれにしていって場合には、私の心配することは、船形地区のある一カ所では昔ながらの小さいつぼの便器を備えた家が相当あって、市の汲み取り制度ができたときに地元の要望として、家のかめは半月経てば一ばいになり、こぼれてしまうというので、市に月二回にお願いしたい。こういう要望があったんですが、その要望もついに汲み取り制度ができてから一回しかできない。それで、三十日、一カ月でくればいいほうで四十五日ぐらいかかる。便所が小さいから外にあふれ出してしまふということが出ているので、簡易水洗ができた場合に、そこからはあがったものがよいになるということになれば、便所を改良する力もないそういった方たちが再度そこに被害が集中するのではないかとということが考えられますが、これについての所管課としては何かお考えがございしますか。

○衛生課長（館石勘治君） 御指摘の簡易水洗方式便器でございますけれども、これにつきましては千葉県といたしましては、この便器に対する規制はしない。できないという見解を取っておりまして、しかしながら、各処理場等も使用能力等もございしますので、できる限りこういうことに現況をお話しして御協力願えればと、こういう考え方を持っておるわけでございます。

二回目が非常に遅れる。こういうお話しでございますが、今後

そういうことのないような方法を許可業者のほうに指導してまいりたい。こう考えております。

○三番（流山源次郎君） 残り時間もほとんどなくなってしまいました。先ほどお話しにございました農漁業家に対するところの設備投資の資金とか、そういったものは現在、近代化等に利子補給をしておるというたてまえから、現在のところでは早急にそういった商工業者が市の商工観光課を通じての市からの借り入れというものは、現在市としては具体的なことは考えていないというように説明でございますが、結局、漁業なり、農業なりの現状と近代化というべきものは非常に進んでしまつて、漁船等もブラスチック漁船とか、機械とかそういったものについて設備が大きくなってしまつてゐる。そうなつてくると、館山市の漁民なり、農家なりが設備投資というべきもので農協なり、自分の所屬してゐる団体から自分の担保とかそういった物件を使って設備にいはいになっておるといふのが現状なんです。

そうなると、人間の人情として、漁業者の営業している方、農家の方たちは、中小企業と同等の資本も必要だし、当然運転資金も必要になってくるんですが、それをどこから求めるかというところ、担保になるものが設備をするのにいっぱいになっておる。船を動かすのに金はどこから借りるかというところ、どこにもない。そのために、冬場の不漁期を非常に目の色をかえて、第一次産業の漁業なり、農業というので非常に頭を悩ましておる。

この件が、私なんかはじめての議員でございますが、昔からこの問題については各議員とも真剣に討議されておったと思いま

す。しかしながら、現在においてこの農漁業家に対して他の地区ではやはりそれに対する、たとえば漁業の問題にしては、銚子地区においては市でそういった制度を別に設けて、漁業の運転資金とかそういったものに対する便宜をはかっているという事実、そういう市もあるわけでございますが、館山市としても今後この問題について、ただ利子補給だけをして、利子補給で現在の漁船や機械なりに使ってしまう。それだけであって、それを回転する運転資金なんかの出どころがないということでございますので、その点についてただ利子補給をしているからということではなく、もう一步前進した前向きな姿勢でそういった制度、銚子なんか実行しておる制度を研究されまして、農家また漁家のために進んだ政策を考えていただけないものかどうか。それをお聞きいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。

○助役（畠山 伝君） これにつきましてはいろいろ市長から御答弁申し上げましたように、他に有利な融資制度もありますわけでございますが、申し越しの件につきましてはなお研究していきたいと思います。よろしく。

○議長（吉田勇治郎君） 三番議員の質問を打ち切ります。

次、一〇番議員渡辺軍治郎君御登壇願います。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）（拍手）

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、次の三つの問題について質問いたします。

第一は、一中移転後の跡地の売り払いについてですが、この問題については四十九年度予算質疑の中で質問し、反対討論をしましたが、一中跡地は地理的、用途的に見ても館山市にとっては貴

重な財産でありますので、その処分については慎重でなければならぬと考えますので、再度質問したいと思います。

市長は、三月議会で一中跡地の売り払いについて、全員協議会で了解を得ていると答えています。が、全員協議会では地元意向を尊重するというところで売却を結論づけるような了解はしておりません。突然、予算に計上されたので、驚いたわけですが、一中の移転は三年も先のことであるのに、市長の任期の切れる最終予算でいそいで計上したのはどうい理由によるものか。お伺いします。

次に、市長は競争入札にするといっているが、公示だけで見込みがあるのか、また指名入札も考えているのかどうか。入札の対象はあるのかどうか。また売却についてどんな条件をつけるのか。お聞きしたいと思います。

次に、入札の最低価額坪三万六千円は時価から見ても安過ぎると思うが、どのような根拠によるものか。お伺いします。

第二は、北条の海水浴場の汚染防止についてですが、館山の観光上、北条の海水浴場が貴重な存在であるということは議会でもたびたび強調され、養浜事業も計画されていますが、夏の海水浴シーズンをはかえて海水の汚染を防止することは緊急の課題であると考えます。

そこで、問題になるのは、北条の海水浴場の中央付近になる館山ガーデン地先の排水路ですが、雨が降ると廃油とヘドロが排出され、付近一帯がひどく汚染され、このままでは海水浴場がつぶれると心配されていますが、どう対処されるか。お聞きしたいと思います。

第三は、王子不動産、その他の開発会社が館山市に開発の申し入れをしておりますが、この問題については開発審査会より開発事業に関する指導要綱と開発協議基準が示され、全員協議会で検討されてきましたが、その後指導要綱に基づいて事前協議がどのようなに進められてきたか、その経過についてお伺いしたいと思います。

また、市長は、事前協議に基づいて県に意見書を提出していると思いますが、その内容についてお聞きしたいと思います。

以上、三点について再質問に譲ります。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 渡辺議員さんの御質問にお答えいたしたいと思いますが、一中跡地の問題につきましては、三月議会でも渡辺さんから御質問もございましたように、これはやはり経済上の理由によって売らなければならぬ。こういうことであることは御承知のようでございますが、現在、一中は移転先の用地を約一万三千坪ばかり取得してありますが、まだ約二億円ばかりは未払いになっております。それと、校舎のほうは三年がかり、防衛庁の予算の関係上です。今年からかかる。こういうことになっておるんですが、それらの土地代金とか、あるいは校舎とか施設またあそこに武道館を建てることにもなっておるんですが、そういうような費用に充てるためにあそこを売ると、あそこはたしか七、八千坪じゃないかと思えますね。今売ろうとするところは。しかし今度買い求めたところは一万三千坪ですから、差し引きしても相当地所は広くなると、こういうことになるわけでございすが、そういうことで売ると、こういうことになっているんです。

が、理由はそういうことです。

それから、競争入札の対象業者というのは、私はまだ検討しませんけれども、おそらく私は十二月十日で任期満了いたしますから、市長としてこれを施行することじゃないと思えますね。おそらく私の任期中は、私の手でやるということとはございません。

競争入札の対象者は現在六、七業者あるようですが、私の考え方を申し上げれば、やはりあの土地を市の考えておる観光施策にマッチした仕事をする業者で、しかも相当実力のある人の中から指名競争入札をしよう。こういうような考えでございます。

それから、入札の価額は三万六千円ですが、幾らかで低いとおっしゃるけれども、これはやはり市には評価委員とかいろいろそういうものを評価する制度があつて、委員の方々がおられますがそういう人に検討してもらつて、近所の土地の値段等を合わせてなるべく高い値段で敷札をつくつてやるという、私は考え方を持っておるわけでございます。

それから、北条海岸汚染についていろいろ御注意がございましたが、これはこの間、助役が見に行ってくれたんだそうですが、今のところはいいそうですね。しかしながら今、夏季を迎えておりますから、いろいろ御注意もございしますから、これは慎重に考えて海岸にきたない水の流れないように、これは対処してまいりたいと考えております。

それから、この王子不動産、その他に対する協議ですか、いろいろの内容のことについては先般、審査会ですか、いろいろ話合ったりして、要するに土地の人に迷惑をかけないということが大事なわけで、それを基礎として企画課のほうで条件をつけて県

のほうに進達したわけでございまして、その条件をつけたくわしいことは企画課長から説明をいたさけますので、お聞き取りいただきたいと存じます。

以上、答弁申し上げます。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 意見書の内容等につきまして、私のほうから申し上げます。

現在まで大型の開発計画が出されましたのは十指に余っておりません。そのうちに市長の意見書を付して県に進達いたしましたのは、王子不動産一社だけでございます。あとの分につきましては目下審査会で慎重に検討中でございます。

王子不動産に対します意見書の内容につきましてお答え申し上げます。これに館山市長から千葉県知事に対します意見書でございますが、まず一つとしまして、当該地域開発に対します地元住民の意見が重要なことでございますので、住民の同意が得られ、なおかつ開発基準等が誠意をもって実行されるならば、一応今の状況といたしましては、大きな支障がないものと考えられます。

二つといたしまして、計画区域の現況から見まして、施行にあつて土砂の流出による災害防止に対する十分の対策が必要であります。

三、計画区域周辺の農業用水水源の涵養に対する十分の配慮が必要である。

四、汚水排水の放流計画については再検討の必要がある。

五、深井戸掘さくについては再検討の必要がある。

六、その他施行に際して指導、監督を強化し、その万全をはか

る必要がある。

最後に、開発区域は一部千倉町の区域に含まれるので、千倉町の意向についても十分考慮されたい。

以上のような趣旨の意見書を付して県のほうに進達していただきます。以上でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 最初に、一中移転問題について再度御質問しますが、市長さんの答弁では経済上の理由ということで答弁があったわけですが、その前に一つ伺いたいのは、三月十八日の団体解散式で市長は、一中の跡地は運動場にしたいということをいってありますが、この三月十八日は、三月一日から二十一日まで定例市議会が開催された期間中であります。この議会では、予算書にすでに売却をきめているのに、市長は議会の開会中に、一中の跡地を運動場にしたいということを団体の解散式で述べているということは、どちらが本当なのか。売りたいというのが本当なのか。その点、はっきりしてもらいたい。

○市長（本間 譲君） 渡辺さん、それは私がそういうことを言ったことはないんですが、あそこを運動場にしなければならぬことは、私としては言った覚えはないけれども、どんな聞き間違いでしようか。最初からそんな考えをしておりませんからね。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これは私も、地元の意向を尊重するということと地元に行って聞いたわけですよ。地元の区長さんや町内会長さんは団体の解散式に招待されて参加しましたと、そのときに、市長が解散式であいさつの中でこういうことを言ったから、私たちは運動場ができると、そういうふうに理解していましたが、運動場なら非常にけっこうだと、こういうふうに話していました。

そういう人が、参加した人がそういうふうに聞いているわけですから、市長が言わないというようなことはないと思うんですが、だから、一中の跡地の処分についても非常に首尾一貫しないものが感じられるので、その点をまずお聞きしたいと思うんです。

○市長（本間 譲君） 渡辺さん、それはおかしいね。そんなことはありませんよ。あんたいくらそうおっしゃっても、私が言わないものを言ったと、おかしい。第一、そういう考えを持っていますよ。最初からあれは一中の地所だから、一中を建てるために売ると。そんないいかげんのことは言いませんよ。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 言った、言わないは、これは水かけ論になるからその点は終りたいと思いますが、地元の人はそういうふうに聞いていると言うんですよ。そういう点で市長さんの頭の中にはっきりしないものがあるのじゃないか。

まず、そういう一点を指摘したのは、市にとって貴重な財産ですから、それを処分するのに相当慎重でなければなりません。そういうふうに考えるので、今の市長さんの御答弁は水かけ論になるので、これ以上追及しません。ただ、一中建設についてまだ未払いの金が二億円もあるというふうなことを言っていますが、本年度の予算で計上しているのは、一般財源としては建築費が約一千五百万、それから土地の未払いが今年度の予算では約九千万円大体一億円ぐらいが一般財源としてこれは一中の建設費に充てられているわけです。

だから、全体を見ますと、予算が足りないから、市長の言うには、経済上の理由と云っていますが、予算が足りないから土地を売り払う。予算をまかなうために市の重要な財産をばんばん売ると

というようにことだつたらだれだって予算を組めますよ。そういう点では慎重さがないんじゃないか。建設費の一億円ぐらいの予算はどっから回わせればいいじゃないかというふうにも考えられるので、市長さんの言う経済上の理由という点では、これはそういう答弁は、本年度の予算上から見れば、ほかの財源も含めて全体の中で予算が足らなくなるから三億円の予算を計上したと思うんですが、一中の建設費だけの予算じゃないと思うんですが、その点はどうなんですか。

○財政課長（長谷川広治君） 一中跡地の財源を特定のものにするかどうかというところでございますが、私どもとしては特定のものには考えておりません。しかし現実の問題として一中関係に現在まで支出した金が約一億八千万でございます。四十九年度のものを入れまして、あと五十年、五十一年度の工事に対する市負担分がかかるわけでございますが、大体市の負担額は三億二千万ぐらになるんじゃないかというふうに考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 一中の建設が五十年、五十一年と先にかかるわけですよ。今年度の予算としては大体一億四千万ですか、土地のあれは含めませんが、それぐらいの金額が計上されているようですが、市長が任期をやめていくという、そういう時期に、これは五十年、五十一年の建設費あるいは土地の支払い、そういうようなものは市長がかわってから出てくる問題ですよ。市長がやめなければいけないその年に、三年も先のことをあとの市長は、市長さんが続いて出るかどうかわかりませんが、あとでやった市長は、こういう問題については引き継ぎ上困るんじゃないかと思うんですが、三年先に移転しなければならぬやつを今、い

それでやったということの説明がなかったわけです。ただ、経済上の理由ということだけでは、これは納得できないと思うんですが、その点はどうお考えですか。

○市長（本間 譲君） これは渡辺さん、あなたと私の見解の相違です。あなたはそう解釈しても私はそう思っていない、市全体の責任者としてそれが最もよろしいからお願いしておるわけですから、よろしくどうぞ。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 今まで、市が予算が足りないのに、土地を売却してやったという、そういう経過もあるわけですね。今、那古のほうの市営住宅のところの土地は、市営住宅の住民が市に対して払い下げの申請をしているし、大浜の人たちも市有地を払い下げてもらいたいという、そういう要求もあるんです。そういう要求にこたえないで、一方で大事な財産を売り払うというようなことを、ただ私と市長の見解が違ふからとか、そんなことでは済まされない問題です。

今まで、市が土地を払い下げた問題についても、たとえば、中央公園の半分を公社に払い下げて八千百万円のお金で温水プールをつくっている。あるいは安房支庁の跡地を公社に払い下げて予算収入に充てている。こういうような事実から見れば、大事な財産だったら別途の方法で収入の道を開くことも考えられると思うんですが、そういう点についてはどう考えていますか。

○財政課長（長谷川広治君） 御意見ごもっともと存じますが、財産の運用という面もやはり必要かと、こういうふうに考えておりますので、一つ一つの土地につきましてはいろいろ御意見等もあるうと思いますが、総体的に四十二年度からの資料が今ここにござ

いますので申し上げますと、四十二年から八年度の

（「経過を開いているんじゃないんですよ。どういう考えか。時間がなくなるから。」との声あり）

私もでも買収をいたしました土地が十五万六千七百坪程度でございます。これに関連して売却をいたしました土地、いろいろのものがございしますが、総体で約二万六千六百坪程度でございます。

こういう考え方から、一つの財産の運用もやはり経済運営と申しますか、そういう面でお考えしていきたいというふうに考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 地方財政法の三条の二項並びに四条の二項、こういうふうなところに財源の補填について規定があると思うんです。この二項には、経済の現実に即応してその収入を算定、予算に計上しなければならぬ。これは経済の実態に即応するということ、館山市の予算から見れば財源として少ないけれども、財源が少ないからどうしても土地を売るといふようなことを考える。しかし今までの経過から考えれば、中央公園の土地を一応公社に肩がわりして、そこでもって財政収入に充てるといふようなことをやっているわけですよ。貴重な財産を予算が足りないから売るといふような、そういう立場でやるならばだれだって政治やれるわけですよ。

それから、四条の二項では予算収入は適実かつ厳正にこれを確保しなければならぬ。こういうことを言っていますが、私はこういう規定から見ても、なんか安易にやっていると思うんですが大体この土地を売るといふ確実性がなければ予算に組めないと思うんですが、一体予算に組む以上、売却する相手といひますか、

対象、そういうようなものについて確実性があるのか、ないのか。その点をひとつ聞きたいと思います。

○財政課長（長谷川広治君） 先ほど、市長の答弁で申しましたが

年度の途中では一応事務的な作業はしないというように予定でございますので、私どももまだ正式な予定はございませんが、現在六社ばかりがこういう事業をやりたいというので、ぜひ払い下げをお願いできないかというような話がまいつておるものもございす。しかし、これは払い下げを決定しまして、作業日程にのせまして、その過程でいろいろ折衝あるいは条件そういうようなものを決定をして払い下げまでもっていきたいというふうに考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの財政課長の答弁では、七社

が申し入れているというようなことで、これは確実性があるかどうかという点については疑問が持たれるわけですが、その申し入れしている中に、ちょっとお聞きしたいんですが、株式会社館山マリンホテルというのはどこにあって、どういう人が経営しているのか。それをちょっとお聞きしたいと思うんですが。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 今、手もとに書類を持ってきておりません。のちほどまた、必要でございましたら、御答弁申し上げます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 今、手もとに書類がないからといって館山マリンホテルがどこにあるのか、申し入れている会社の責任者がだれであるのか。それも知らないというようなことでは問題だと思ふんですよ。

私は、電話帳で全部調べたけれども、館山にこういうマリンホ

テルというものはありません。保健所に電話して問い合わせましたところが、保健所でもわからない。こういう返答をしているわけです。

こういう会社が申し入れているとすれば、ゆうれい会社じゃないかというような考えが当然出てくるわけです。非常に、こういう会社が申し入れて買収をするというようなことで、私が資料をもらったのを見ると、八社が申し入れています。その中にこういうのがあるので疑問が一つは持たれるわけです。

もう一つ、この八社が競争入札するということをしてもしもこれはせんだって平砂浦の公社の土地がグリーン開発ですか、この落札になっていますが、最後に残ったのは千代田観光と二社でもって落札競争をやっているわけですね。しかも、その落札の差額が十七万そこそこで落ちていくわけなんです。大体協定価額というものが漏れているから、それに十七万のうわのせしてグリーン開発に落ちているというようなことも事実あるので、だから入札をやる場合にしても、今の経済状況で金融がある程度引き締められるという中から、当然こういう会社はしぼられてくると思うんですよ。一体、そういうような見通しをどういうふうに立てているのか。市のほうでは八社が申し入れている。大体内容を見ますと、マンションとか、ホテルが中心ですが、市がどういふ条件をつけてこれを売却するのか。先ほどの話では観光的のものといっておりますが、あまりはっきりしないので、そういう点も聞いておきたいと思っています。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 私の申し上げたいと思ふことは、かつて何年か前に、あの一中の用地をぜひほしいけれどもという

ような意思表示がなされましたのが何社かございます。しかし今回、正式に予算計上されまして、そうしてこれを売却というようにすることになりますれば、当然かつての各社を指名して入札させるのか、あるいはまた、全然それは考えないで他の方法を考えるのか。これは決定されておらないわけでございます。ただいま申し上げたのは、何社かがかつてぜひほしいという申し入れをしてあったということでございますので、具体的問題につきましましては今後の問題であろうかと、さように考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 今後の問題であるというふうに言っていますが、不確定のものを予算に計上するというようなことは軽率だと思えます。これは予算執行でなくなるから。私は、ある程度の見通しを持ったから予算に計上したというふうに考えているわけですよ。それでなかったら、もしこれが不調に終わったら予算執行できないはずですよ。当然、予算を組む場合には、ある程度の見通しがあったと思うんですが。

もう一つ、お伺いしたいのは、二中のあの土地を市が中村庸一郎さんから買い取ったときに、坪三万円で買い取っています。そのときに、中村さんは一中の跡地と交換してもらいたいというようなことが言われたと、いや、それでは困るということ、そのほうはことわったというふうなことを聞いておりますが、この関連で、一中の跡地を払い下げる場合には、中村さんも一枚加えてもらいたいというふうなことになるのかどうか。それをひとつ聞いておきたいと思えます。

○財政課長（長谷川広治君） 教育委員会からお聞きますと、交換にほしいというふうなお話があったそうですが、私

どもとしては交換というよりも、買収するものは買収、払い下げするものは払い下げをするという形式を取りたいということでお願いを申し上げております。

なお、実際の払い下げの段階で中村さんをオミットするというのは考えはございませんし、御希望されて事業等がわれわれのものと合えば、ぜひお入りいただいて買っていただくという考え方でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの説明だと、二中の用地を買収するときに、ある一定の約束があったと見られますが、そういうようなことで一応の見通しを立てたんではないかと思われませんが、その点は一中跡地の、市が買収した価額が坪三万円で、払い下げ価額が三万六千円。こういうような数字にも一つは出ているんじゃないかと思いますが、あの一中付近の土地は、時価で七万から七万五千円です。市がああいう土地を離して、あれと同じくらしいの土地を手に入れようとすれば、三万六千円の売った額では手に入らないのはつきりしています。

今、公共用地はどこでも不足していると、市民住宅をつくるにしても土地がなければつくれないし、あるいはあそこは市で国民宿舎のようなものを建てても観光的には役立つ。あそこは場所とすれば非常に尊い場所だと思えます。それをわずか三万六千円で、払い下げていいかどうかという問題にもこれは疑問が持たれます。もっと最低額を引き上げる必要があるんじゃないかかと思えますが、その点はどうですか。

○財政課長（長谷川広治君） 三万六千円というのはおそらく予算計上額と、積算いたしました坪数を割った数字じゃないかと思

ますが、予算上の数字といたしましては、おおよそこの程度になるだろうという最下限の数字をおさえて予算計上してございます。したがって、実際競争入札あるいは指名競争入札にいたした場合、先ほど市長が申し上げましたとおり、財産管理審議委員あるいは固定資産評価委員等いろいろ地価にくだしい方々もおりますし、そういう方々の意見、それから近郊類似の地価、そういうものを勘案いたしまして、市長も先ほど申しましたが、敷札を作成をし、入札あるいは話し合いをするということでございますので、三万六千円はあくまでも予算の積算をいたす上での最下限の価格でございますので、御了承願いたいと思います。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） この問題については、これは大体予算額ですから、今後額がどうかはわかりませんが、少なくとも、少なくともあそこは非常に市としても地理的、用途的から見ても重要なところだし、再びそういう土地を手に入れるということが困難でありますから、売却するにしても三年も先のことですからもう少し時期を見てやってもよかったですのではないかと思います。市長が任期を終るどさくさに売り逃げというような形になるのは好ましくないと思うんですよ。だから、この問題についてはこれから見守っていきたいと思うんですが。

最後に一点、今まで公社に市有地を払い下げて予算収入に充ててきたんですが、この一中跡地の問題は、地元でも運動場を利用してもらいたいというような声も強いし、地元の意向を尊重しないでやるということも問題があると思いますので、一時公社に払い下げて予算収入をまかなうことにして、これについてはもっと先にいって考えてもいいんじゃないかと思いますが、その点はど

うですか。

〇財政課長（長谷川広治君） これは予算委員会のおきにも申し上げましたが、年度の末にそれぞれ処分決定をいたしたい。それまで年度の財政事情を分析いたしまして、もちろん財産でございすので、他に収入があれば売らなくてもいいわけでございすので、売り先等につきましても、形の上では市から売るといふことでございすが、売り先は公社あるいは一般の業者、そういうものも全部売却という形にはなるわけでございすので、そういう面も入れまして十分検討してまいりたいということで答弁を申し上げますが、もちろん開発公社等も考えの上に入れますので、財政のアンバランスがなくなれば、私どもは他には売却はしたくないという考え方はいたしております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） この問題は、ただいまの答弁で慎重に公社も含めて扱うということですから、一応了解していきたくと思います。

次に、北条の海水浴場の問題ですが、これはふだんはきれいな水が流れているんですよ。雨が降るとあそこに油まじりのヘドロが排出されるということで地元の地びき網業者はヘドロで網の目がふさがれる。漁師もあそこで取れる魚は食べないというぐらいに汚染されて、雨が降ったときにヘドロがおし出しますから。どうしてあそこに油の水が流れるかというと、日東交通と自動車区と南房タクシーと、自動車を扱う会社があそこにあるわけで、その油が線路の上を流れて、線路を横断して海岸の海水浴場の中央に流れるようになっていくわけです。

だから、一番問題なのは、廃油が海に直接流れるということの点

を防止しないと海水浴場はつぶれると思うんです。そういう点で簡易な浄化装置ができないかどうか。もしできないとすれば、自動車会社の対して廃油の処理をどういうふうにさせるか。またその廃油が流れる水路を、線路の上を濠川に流すようなそういう措置を講ずるとか、いろいろ手があると思うんですが、そういう点をどういうふうにお考えなのか。聞きたいと思っています。

○衛生課長（館石勘治君） 廃油の処理でございませけれども、現在廃油につきましては正木処理場のほうに全部の業者からあそくに持ってくるように指示してございますので、おそらく廃油関係はそういうところにならないように私は思っておるわけでございますが、なお洗車等で車を洗うために油が流れるんじゃないかということも懸念されますので、今後そういうことにつきましては、各事業所等に注意するとともに、一方私たちのほうはそれらの排水路を十分巡視しながら、そういう事案の出た場合はその根拠をつきとめまして、業者に注意をうながす。こういうような方法であそこの溝をきれいにしていこうと、こう考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 時間がありませんから、この問題は一応原因が自動車区付近の廃油にありますから、この点はひとつ特に公害ともいふべきものだと思いますので、十分調査してそうして廃油が流れないようにすると同時に、排水路の問題ももう少し研究して、それからこれは楠見の川ですけれども、ああいうところもかなりよごれたものが海に流れるわけですから、簡易な浄化装置を研究していただくようお願いして、この問題は終ります。

その次の王子不動産、その他の開発の問題ですが、企画課長の説明では、いろいろ意見書についての七項目ぐらいいわたって出

ておりますが、詳細にわたっては時間がないので、できませんが王子不動産ほか、その他の大規模開発が申し入れされているわけですが、こういう大規模開発については事前協議をやるんでなくて、事前協議を拒否すべきだと思っております。大規模開発が自然環境を大きく破壊して、館山市の発展を大きく阻害するということははっきりしているわけですから、要綱にはそういうようなことがうたわれていますから、自然環境を破壊すると認めたような大規模開発については事前協議を拒否するというような考えはないのかどうか。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 御承知のとおり、なるべく自然を破壊しないようなことが望まれるわけでございますけれども、しかし一方また、いろいろ地域的に考えた場合に、やはり一つの開発というものはある意味では必要なことも考えられると思います。でありますので、両々相まって検討しながら慎重にこの問題は対処してまいりたい。そのように考えております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一〇番議員君の質問を終わります。午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午後十一時三十二分 休憩

午後一時 三分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十二名、休憩前に引き続き会議を開きます。

六番議員栗原一雄君御登壇願います。

（六番議員栗原一雄君登壇） （拍手）

○六番（栗原一雄君） 今般、第二回館山市議会定例会に私は二点について御質問いたします。

過ぐる六月十一日、暦の上からも梅雨入りであり、本年は気象庁から同じく梅雨入りを宣言いたしておりますが、本年は梅雨は長そうである。このように長期予報を発表いたしております。

さて、最初に第一点として御質問申し上げる点でございますが、雨期及び台風シーズンを迎えるにあたり、豪雨による災害再発防止と排水路の点検整備についてでございます。

最近、特に雨期に局地的な豪雨ということばを耳にいたすわけでございますが、館山市においても昭和四十七年七月十五日の集中豪雨、同年九月十五日、十六日の両日にわたる三三三ミリという記録的な降雨量、さらには昨年十月二十八日の二三三ミリと集中豪雨による被害が続出し、昭和四十七年九月十五日には全壊二棟をはじめとして、床下浸水を含めての住家の被害件数は三百四十七件でございます。その後におきます昨年十月二十八日には全壊一棟をはじめとして百六十五件の被害を受けておりますが、これは市の災害対策本部に報告されたものであり、未報告の分、さらには国、県の管理下におかれた被害総額は相当のものになるものと思われれます。

当時、この問題につきまして、九月臨時議会において御質問申し上げ、他の議員におかれましても質問されておりますが、昨年だいが改良工事等も進められ、周辺住民の方々もたいへん喜ばれておりましたが、その直後の十月二十八日の集中豪雨には、以前とあまりかわりがないという住民の声も大きいわけでございます。再発防止の対策をどのようにお考えでられるか。お尋ね申し上げます。

さて、第二点といたしまして、北条海岸養浜事業計画の進捗状況についてでございます。

新海岸五カ年計画は本年の二月に観光審議会におきまして検討され、海岸環境整備事業が運輸省並びに千葉県による事業計画案が提出され、館山市の恵まれた気候、風土の地形等が考慮された国土保全事業の一環として、砂地の回復と合わせて養浜事業を行なおうとするものであり、経済的活動の基本的条件の少ない現況下における館山市においては、自然環境保全の国民的要求である今日、当市においても一部乱開発による問題点を考えますときに、現在の館山市の首都圏における位置づけとしても、養浜事業こそきわめて急務であり、重要な基盤づくりであろうと私は考えますので、長期的展望に立つても必要である。このように考えるわけでございますので、その後の関係機関との話し合い、また経過についてお尋ねするものでございます。以上。

(市長本問 譲君登壇)

○市長(本問 譲君) 栗原議員さんの御質問に対しましてお答えを申し上げますが、文書をもってあらかじめ通告がございましたのに従いましていろいろお話しもございましたが、台風時における考え方ということでございますが、これはきわめて重要なことでございまして、遺憾なきを期さなければならぬわけでございますが、くわしいことにつきましては土木課長等からも説明を申し上げますが、まず御質問なされました中央排水路の歩道橋の橋脚ですか、あれのことが出されておるわけですが、これは県においてもすでに設計も終りまして、地元との話し合いがつき次第、八月頃にこれを変更しよう。こういうよう

なことでございますので、御了承願いたいと思います。

代田水路神社脇の歩道橋ですか、これが低いというようなお話しのようでございますが、これはその当時はやはり住居が少なく、あまり高くしないように、こういうような話し合いもありましたわけですが、最近、相当あそこ家が建ちまして、おっしゃるように低いじゃないかと思うわけでございますが、これはやはり地元の関係者、沿道の方々と相談してなるべく意に沿うようにいたしたい。こういうわけでございます。

それから、北条海岸の養浜事業でございますが、これはきわめて大きな問題で、大きく歓迎すべきことでございまして、この実現を早期にはかりたいと考えておりますが、これは三年計画というようなことでございますが、漁業組合にも話しかけますし、それから地元の方々と話し合いました、非常に地元の方々は喜んでおるわけでございますが、漁業の方はやはり了承されると思えますが、漁業権の問題等もございまして、今、話を進めておるわけでございますが、これはなかなかむずかしい仕事でございますので、県の技術者やなんかとよくまじえて相談して、設計して早期に実現をはかるようにいたしたい。こういうふうに考えておる次第でございます。

以上、抜けておりましたかどうか、申し上げましたが、また抜けておりましたら、お答えいたします。どうぞ。

○六番（栗原一雄君） ただいま、市長さんの答弁のとおりでございます。

館山市の人口密集地というものは、やはり北条地区を中心としたものでございますので、北条地区を中心に流れます中央排水路

そして長須賀、そしてまた新宿、南町というところに流れております代田水路いわゆる境川の上流についてでございます。これは私は、通告をしたとおりでございますので、これにひとつしぼってみたいと思います。

館山市の地形を考えますと、非常に高低の少ない地域でございます。もちろん大きな山がございませんので、そういった面で非常に高低のゆるやかなところでございますが、海岸線と平行いたしました排水路、いわゆる中央排水路が流れておりますので、そういった関係で非常に流れがわるい。一たんこういうような雨期になりますと、大雨は当然本流に流れ込みますので、排水路俗に言われます枝線でございますけれども、そういったものは本流の流れにふたをされるような形でございますので、いわゆる排水路周辺については非常に水害のような結果をまねくわけでございます。

館山市がそういった一番人口密集地の多い中央排水路あるいは代田水路周辺についてのそういった過去の災害から反省、あるいはお考えになられて、将来の計画についてお考えがございましたら、そのお考えについてお話しを承わりたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） 代田水路につきましては、昨年まで継続で青柳方面の田の排水を主として、今までほとんど耕地の脇を小さな水路で流れてきておったものを、昨年まで三年計画だったと思います。改良工事やりまして完全にでき上ったわけでございます。

特に、あのへんは宅地造成も進みまして、だいが家屋も建って前と状況が変わってきておりますので、先ほど市長のほうから答

弁いたしましたように、今後やはり地元と話し合つて熊野神社のうしろの暗渠につきましては、約六〇センチから七〇センチぐらゐ上げればあそこ水がたまるということはなくなるんじゃないかというふうに考えられますので、そういった方面であそこの改良工事を進めていきたい。

それから、その下で、ちょうど境川に合流しておるわけでございます。その上のひるが島のところで安布里のほうからくると武香陵のほうからくる水路が合流しております。その二カ所が大抵いつも水の出るところでございます。

ひるが島のところにつきましては、現在あります橋梁の裏側に一カ所管を通しましたので、だいぶ前とはかわつてきたようでございます。それでもまだ地元のほうからもう少し検討してもらいたいということで私どものほうも検討中でございます。

それから、境川につきましては、県の二級河川に一応指定されておるわけでございます。先般、土木事務所まいりまして、ちょうど前にここにおつた方で、この館山土木事務所に帰つてこられた、住まいがあの付近にございます方がおられますので、いろいろ相談したところ、前に境川のしゅんせつという問題で、私どもで県のほうに要望しましたら、しゅんせつのほうは早速していただいたわけでございます。ただ、沿道の護岸が古いものであれ以上しゅんせつしますと、根が出て結局宅地があぶなくなるという状態なので、だいぶ加減いたしてしゅんせつしたようでございます。

土木事務所の話聞きますと、どうも国鉄の暗渠が少し断面が小さいんじゃないかという説もでございます。国鉄さんのほうであ

そこの改良ということを考えてもらえば、県のほうは境川の改良工事についてやりやすいんじゃないかというようにも何っておりまして、今後国鉄へも要望いたしますし、土木事務所へも県のほうにも要望してあの境川を汐入川のところまで改修計画を実施してもらうよう今後も要望していきたい。

以上でございます。

〇 六番（栗原一雄君）　ただいまの御答弁で国鉄、県に要望するということでございますので、一昨年の雨以来あまり強い要望はされていないような気がいたします。実際には、過去、田んぼがプールのな要素を持っておりますので、雨が降りますと、雨水が貯水できるということでございます。しかしながら、現在はそういった意味で田んぼが造成されましたので、代田川周辺については特に館山市の開発公社が宅地造成いたしました以来、連鎖反应的に周辺に宅地造成が盛んになったわけでございます。

そういった面で、今までプールのな要素を持っておつた田んぼが即排水路に流れるということと水のバランスがくずれと申しましようか。そういったことで、これは一つには人為的な結果がいわゆる水害というような形になったのではなからうか。このように考えるわけでございます。

また、ある意味では、最近、所帯割の家族構成の変化に伴う核家族という形になっておりますので、十人であっても、また三人世帯であっても生活用水は、たとえばおふろの場合でも、十人家族でも一ぱい流す。あるいは三人でも同じということで、そういうような将来の見通しとか、そういったものをお考えになられてあそこの昨年改修されたのでございますけれども、代田川を改修

されたかどうか。実際に昨日も確認に行ったわけでございますけれども、坂田地域と申しましょうか、あのへんでございますと、排水路の底の高さと、底部と、それから田んぼの底辺と申しましょうか、底部とあまり格差がないというところに原因があるのじやなからうか。そういったものを見込んでそれをなされたか。もちろんそうされたと思いますが、そのへんについてどのように計画をお考えになられたかどうか。そのへんひとつお答えいただけますか。

○土木課長（飯田治男君） 代田水路につきましては排水区域、排水路、そういうものを全部計算いたしまして断面を設計してやっております。ただ、あそここの橋につきましては、あの道路をつくるときに四十年度の道路改良で拡張しておるわけでございます。その当時、地主さんの要望で現在の高さ以上にしないでくれ。今度もあの高さにしておいてもらいたいという強い要望があったので、いたしかたなくあの高さで暗渠を低くしたわけでございます。○六番（栗原一雄君） 先ほどの答弁、ただいまの答弁、そして暗渠のお話してございますが、底部が低いために歩道橋と申し上げましょうか。底との間が少ないわけでございます。四十年当時の地元の要望によりあれだけの高さであるというお答えでございますが、ひとつそのへん、改修は時代の要求でもございますので、積極的に改修していただきたいということ、それから熊野神社から境川に入るまでの水路が何回か屈折いたしております。水の性質上、どうしても水路の外側を回ります関係上、内側にたいへんどろがたまっております。もうすでにそのどろには一尺以上の草がはえております。ああいっただものを雨期の前に撤去する

ならば、万一多少の雨が降ってもある程度解決できるのではなからうかと思っておりますので、そのへんやっていただけかどうか。ひとつお答えいただけますか。

○土木課長（飯田治男君） その点につきましては、衛生課のほうに相談いたしまして御要望にこたえてまいりたいと思います。

○六番（栗原一雄君） それから、中央排水路の歩道橋の問題でございますが、一昨々日私はカウンターを持っていきまして、どのぐらい利用するかということでチェックいたしました。もちろん県の昨年度の統計もちょうだいしてございますが、実際には、朝はたいへん子供たちが利用しておりますので、人命保護の面については相当の効果をあげていると、このように私は考えます。しかし日中においての利用度は非常に少ない。たとえば、十時から学校の子供たちの帰る一時半ぐらいまではほとんど利用者がないというのが実情でございます。

これは実際には、効果をあげておりますけれども、四十六年でございますか、一〇番議員さんが質問されておりますけれども、確かに水というのは直線的に流れますので、水路の中央に位置した場所に橋脚を設けたことは、もちろん市の責任ではございませんけれども、もう少し工夫があつて欲しかった。このように考えるわけでございます。三尺ほど道路側に食い込んでおりますけれども、昨年でございます。ちょうど雨が降ったとき私、その現場にまいりまして、トタンが流れて橋脚の足にかかっておりまして水が下に流れないという事態になっておりました。取ってままして、一挙に流れるということで、非常にあそこは逃げは取ってはあつても実際に影響をいたしておりますので、そのへんの工夫

を県のほうにもう一度お話しをしていただきたいということ、先ほどの御答弁では市長さんの御答弁いただいておおむね了解いたしておりますけれども、やはり工夫ができるものなら県のほうに積極的に工夫をお願いし、そうしてまた、新塩場から元の北条小学校の通りでございますが、けっこうヘドロがたまっております。また一部についてはすでにどろが堆積しております。そこにやはり一尺ぐらいの草がはえておりますので、これもやはり撤去いたしませんと、この雨期におそらく間に合わないという結果になるうかと思っておりますので、そのへんもひとつ取っていただきたい。このように考えますが、そういった計画は現在お持ちかどうか。ちょっとお尋ね申し上げます。

○衛生課長（館石勘治君） ただいま、中央排水路の掃除のことでございますけれども、実は私どもも中央排水路のヘドロといいますが、どろの量等はいつも見ていますのでございますが、現在大体局部的一〇センチ程度、総体的に五センチ程度どろがあるようにございますので、近いうちに全部撤去する予定で考えております。

○土木課長（飯田治男君） 歩道橋のかけかえのことでございますが、やはり県の土木事務所が歩道橋の利用数というものを昨年の九月ですが、全部はかったそうでございます。それで、やはり歩道橋はこれだけ利用しているから撤去することはできないということで一応私どものほう、それから交通課のほうに相談が持ちかけられたわけでございます。

工法につきましても、現在のコンクリートの柱を撤去しまして二またにしまして、水路の端、右内側と、道路の水路と反対側の右内側のほうに鉄骨を建てて、その上に歩道橋をのせるというふ

うな工法でやりたいということで、一応市のほうへは相談がきておりますので、一応その線で設計を進めてもらいたいということとして話してございます。

○六番（栗原一雄君） 現在の御答弁でたいへん私もいいことだとこのように考えております。実際には、歩道橋のいわゆる橋脚がたいへんそういった意味で大きな災害をもたらしておりますし、代田水路につきましましては、先ほどの神社脇の歩道橋が非常に底との高低が低いために、やはり同じような結果をまねいておる。こういう結果になるうかと思えます。

ひとつここで、館山市の地域防災計画によりますと、第二十四節に水防計画附表第一の二項に掲げられております「大雨等により局地的に浸水した個所はポンプ等をもって排水作業を実施する。また居住者を通じてこれらの浸入地は低地帯のため盛土等の指導をする。」と定められておりますが、実際にそういったことで地域の人たちにそういった指導をなされたかどうか。ひとつお聞きしたいと思えます。

○交通防犯課長（山口一君） お答えいたします。確かに、地域防災計画にはそのように定められております。いわゆるこれは応急対策としての措置でございます。それは指導ということじゃなくて応急対策としてそのように実施するという定めでございます。いわゆる排水路等の改修につきましては、それぞれの主管課において指示をする。このような進み方でございますので御了承いただきたいと思います。

○六番（栗原一雄君） 北条海岸の養浜事業計画についてお尋ね申し上げます。

たいへんこれは重要なことだと、先ほどの市長さんの御答弁でございますが、この二月に行なわれました観光推進協議会の時点で、本事業がいろいろ論議されたわけでございますが、当然こういった問題が起きますと、それに対する事業予算の要求、事業計画書というものが提出が必要ではないだろうかと思いますが、これについてどのようにお考えになられておられるか。お答えいただけますか。

〇商工観光課長（鈴木 力君） お答え申し上げますが、この事業の実施にあたりましては、事業主体は県でございます。したがって、県のほうから一つの試案といたしまして事業内容が市のほうに示されたわけでございます。

その内容につきましては、一応汐入川に二本の突堤形式の導流堤をつくる。これは沖合い三〇〇メートルでございます。なお、平久里川河口にやはり三〇〇メートルの突堤形式の導流堤をつける。なお、その間におきます砂浜のいわゆる復元ということで養浜、砂の投入を行なう。これが大体五〇メートル幅の砂浜を拡大する。これが主体となる事業でございます。その他後背地につきましては、海岸の海浜公園として植栽、その他の事業を行なう。こういう事業内容でございます。

しかしながら、これはあくまでも一つの試案でございます。この形で事業を行なうということは技術的にも非常にむずかしさがある。こういうふうなことを県のほうも言われておるわけでございまして、いずれにいたしましても今後、この施行方法につきましては技術的に関係者で十分煮詰めた上で決定をする。こういうふうに現在なっておるわけでございます。

〇六番（栗原一雄君） この問題は、ある意味では国土保全または砂地の回復ということで、私はきわめて重要な問題だろうと思いますが、現在、計画案とされております総面積、そしてたとえば工期はどのぐらいかかるんだろうか、そういうことにつきましてお尋ね申し上げたいと思います。

〇商工観光課長（鈴木 力君） 面積につきましては、大体汐入川河口から平久里川まで約一、七〇〇メートルあるわけでございます。それで、養浜いたします砂浜の幅員というのが五〇メートルということでございます。一七、〇〇〇平米ですか、これが一応養浜の行なわれる面積、こういう積算をしておるわけでございます。

それから、年次計画につきましては、当初におきましては新海岸五カ年計画といたしまして、運輸省におきましてこの構想を計画したわけでございますけれども、その後総需要の抑制とか、いろいろ問題がございまして、現在におきましては、従来の国土保全いわゆる海岸保全事業五カ年計画これに上のせしまして、これを踏襲して新しく昭和五十年から五十四年までに行なわれる海岸事業五カ年計画、これに北条海岸をのせたい。組み入れたい。こういうことを県のほうで申しておるわけでございます。

〇六番（栗原一雄君） 館山市の観光の財源であります海の整備というところでたいへん大事なことでございますが、もちろん養浜ということになりましたと、漁業権を持っておられる漁業者とのいろいろな問題、むずかしい問題があるかと思いますが、観光審議会は二月に行なわれましたんですが、その後何回ぐらいそういうような話し合いをなされておられるかどうか。その点についてお

尋ね申し上げます。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） この事業を行なうためには、もちろん関係皆さま方の御理解と御協力がなければ達成できないわけでございます。そういうことから十分地元の関係者との話し合いを進めたいということでございまして、四月の下旬におきまして館山船形漁協の代表者の方とお会いいたしまして、一応この計画案につきましての内容について話し合いを行なったわけでございます。それからなお、六月早々におきまして、さらに漁協の代表者の方と、それから県の関係職員の方をまじえましての話し合いをいたしてございます。それからなお、県担当者との話し合いということは再三行なわれております。それから地元の観光的な業者との話し合いということにつきましては機会あるごとに話を一応いたしておるわけでございます。

大体、地元の観光業者におきましては、ぜひひとつこの事業を実現させていこうという要望があるわけでございます。

○ 六番（栗原一雄君） 漁業者のお話しを承りますと、館山湾の沖合い三〇〇メートルぐらいいわゆる魚の産卵場所だ。このように言われております。たいへん海草とか、モク、その他が多うございますので、当然そこは住みやすいということで魚が生活していくわけでございますから、館山湾の海底の地形、構造、そういったものについて館山市で研究なされたことがあるかどうか。お尋ね申し上げたいと思います。

○ 水産課長（谷貝茂生君） 直接、市として調査してございませんが、試験所に委託しましてこのものふえておる状況等も委託しまして四十四年当時から実施いたしましたして、その状況につきまして

は、館山桟橋から平久里川の間一五〇メートルあるいは二〇〇メートル沖合いから三〇〇メートルの沖の中にアマモが繁殖しておるということでございまして、アマモの状況では海図と一致しておるようでございまして、細かく砂質になっておるようでございまして、試験所の資料はいたしております。

○ 六番（栗原一雄君） この問題は、砂地の回復ということのみならず、養浜事業による美化だけではない問題でございますので、当然砂地を回復させて養浜事業により美化させるということも、もちろん大事でございますが、やはり将来公共下水道の終末処理が合わせて行なわれなければ、やはり同じようにまた何年か先によごれてしまうという結果をまねきますので、どうか、そういった点を十二分に御配慮いただきまして、公共終末処理、下水処理ということをお考えいただきたい。

以上、お願いして私の通告質問による質問は終了したいと思います。以上です。

○ 議長（吉田勇治郎君） 六番議員君の質問を終わります。

次、九番議員辻田 実君御登壇願います。

（九番議員辻田 実君登壇） （拍手）

○ 九番（辻田 実君） 三点について御質問を申し上げます。まず第一、福祉政策の推進についてお伺いをいたしたいと思います。

本間市長さんにおかれましては、特に福祉行政には力を入れられ、これまでに非常に手腕を発揮されてまいりました点につきましては、高く評価されておるところでございます。

そうした延長において、このたびは福祉都市宣言ということに踏み切られたものと思います。二、三日前に六月の十九日に市民センターにおいて福祉都市宣言を開催するので出席していただきたいという案内状を受け取ったわけでございます。そこで、これに関して質問をいたしたいわけでございます。

福祉都市宣言につきましては、三月の議会の際の全員協議会の中におきまして、福祉都市宣言の印刷物が配付され、これにつきまして若干の質疑がなされたわけでございますけれども、その大かたの空気といたしましては、その都市宣言の内容等を十分考慮してそうして機が熟したときに宣言を行なっていくことがいいだろうというような形で集約されたように記憶しておるわけでございます。それが今回、正式に十九日に宣言されるということとでございますので、私たち議員といたしましては、その内容がいかなるものであり、どのようなことをめざしてこの宣言式を行なうかということについて内容がわかりませんので、くわしく教えていただきたいというところでございます。

すなわち、先般の都市宣言の原案、議員に配られましたところのこの原案でございすけれども、これに大きな変動があったのかどうなのか。いまだにその点については知らされておりませんが、まずこの点をお伺いしたい。十九日に、この都市宣言そのものがこのままだというのなら見ておりますから、違っておりましたら、会場に行つて原文を見なければならぬという事になりますから、その点についてお伺いしたいわけでございます。この福祉都市宣言のときに、ほんのちょっとした質問でございましたから、私も質問しようということとでちょっと手をあげた

んですけれども、まあきょうはここでいうことで集約されて、これは報告程度のことでしたから、それ以上突込まず、後日いろいろ御意見をというような形で終ったわけでございますけれどもそのときも私質問しようと思つたんですけれども、その文面わずか九行ほどのものでございますけれども、その中には老人福祉をはじめ恵まれない人たちの福祉をはかつていきたいと思ひますということが書いてありまして、これに終始しておるわけでございまして、従来本間市長さんの福祉政策の根幹は老人福祉であり、医療福祉であつたわけでございます。そうして、それに関連をするところの児童福祉の面がやや組み入れられていたということを私たちは理解しているわけでございます。

しかしながら、この都市宣言の文面にも書かれておりませんが、福祉という場合にはやはり勤労者福祉というものを尊重してもらいたいということが、まず私はここでもって言いたるところでございす。

二番目には、婦人の福祉、母子福祉について理解をしていただきたい。これはともに母子福祉法、さらには勤労青少年福祉法、さらには勤労婦人福祉法という福祉六法の中の根幹をなすものでございまして、こうした面についての内容が含まれておらないので、やや福祉都市宣言ということについては半分、文字的にも内容的にも欠けておる面があるんではないかというふうに理解されるわけでございます。この点についてどうお考えになるのか。お伺いしたいわけでございます。

三番目に、従来館山市におきましては、都市宣言をする場合には市議会の議決をもって都市宣言というを行ない、そうして

市民にこの徹底方をはかってきたところでございます。すなわちまず最初に、交通安全都市宣言は館山市議会の議決のもとに宣言されたものでございます。続いて、明るい正しい選挙の決議も同様でございます。

今回、三つ目の都市宣言といたしまして、福祉都市宣言がなされるにあたりまして、議会の審議はおろか、議会の決議のないままにこの都市宣言をしなければならなかったという経過についてどのように御理解をいただけるのか。この点を明らかにしていただきたいわけでございます。

この点につきましては、当然この福祉宣言の内容の実現していくについては多くの予算も必要であろうし、そうした面について当然議会の協力を得るのが至当であると思ひますし、館山市議会の議会の権威というものは、都市宣言等を宣言すべき、また審議すべき最高の機関であるはずでございます。その最高の機関において決議されるところの都市宣言こそ、はじめて内容のある都市宣言であって、市議会の決議のないところの都市宣言というものについては、ある面においては三権分立の議会民主主義をとる民主政治のこの社会の中においてはどのような位置を占めるかということについて、その影響を十分判断していただきたいことを私はどのように理解しておるか。ここで、お伺いしたいわけでございます。

次に、二番目の質問に移ります。そこで、憲法第二十五条は、「国民は健康にして文化的な最低限度の生活を営む権利がある。」という、すなわちなショナルミニマムというものがあるわけでござります。

今日、日本の地方議会におきましては、必要最低限の都市基準というものを持つべきだということで、東京都の美濃部さんが非常に強調されて新聞紙上、テレビをにぎわしましたけれども、シビルミニマムということばにおいて、住民が安全、健康、能率的快適な都市生活を営む上に必要な最低条件というものを示すことが福祉行政の根幹だということが言われておるわけでございます。シビルミニマムという横文字でございますけれども、これは美濃部さんが都政の中に入れた前からすでに国会等においては論議されておったところの日本の政治用語、議会用語としてのことばだそうでございますけれども、私は館山市において福祉都市宣言するにあたりまして、たとえば老人についてはこれこれこれだけの最低必要要件、最低条件を満たされるべきだ。たとえば婦人についてはこれとこれとこれだけのものについては最低の条件をこのへんにきめなければならぬんだという一つの目安、すなわちミニマムがそこに明らかにされなければ、この都市宣言、福祉の内容が何であるかということが明確にされないというふうに思ひわけでございます。

したがしまして、私は館山市政の中において、館山市においては館山市民が最低これだけのものは確保できるという一つの権利シビルミニマムというものが明らかにされる中において福祉というものを充実しなければならないというふうに考えております。

この福祉というのは、六〇年安保以来、日本を風びしましたところの高度経済成長政策の中においていろいろなひずみが出てきて、そのひずみに対してやはりこれからの日本は、経済成長よりも福祉成長だということをもって、今全国民がこの福祉に集中し

ておるわけでございます。したがって、福祉というものは単なることばじゃなくて、経済政策を転換し、国民優先の福祉を推進するわけでございますので、予算的にも、内容的にも具体的になければ、私は福祉の福祉たるゆえんがなくなるといふふうに考えるわけでございまして、そういう意味におきまして、館山市にはシビルミニマムというふうな必要最低限の都市基準というものをどのように考えておるのか。そのことが明らかにされることによって、今まで本間市政といえは福祉都市と言われておるようなりっぱな功績に対してより具体的に後世にその名を残しめるものといふふうに考えるわけでございまして、この機会に、この必要最低限の館山市民の基準というものを明らかにしていただきたいといふふうに考えるわけでございます。

次に、国鉄急行列車のダイヤ改善の推進について伺いたいしたいわけでございます。

三年前、特急の乗り入れがあったわけでございます。このことによって、一面におきましては東京、館山間に特別急行列車が通ったということによって非常なる成果また画期的なる国鉄におきますところの一分野を開いたことについて歓迎するところであつたわけでございます。

しかしながら、このことによって、従来朝七時台に運行されておつたところの急行列車が十時に切り下げられてしまい、千葉に出張する場合、さらには商工業者、公務員等が用務のために千葉に行くに際しまして、どうしても特急料金を使わなければならぬといふことでもって乗車券三百六十円、急行券百円の四百六十円でもって千葉に行けたものが、今回は乗車券のほかに四百円の

特急料金を払わなければならないということでもって、乗車券よりも高いところの特別料金を払う。こういう事態になって非常に大きな経済負担というものが課せられるようになり、これが半年たち、一年たつてかなり負担となつてそうした市民に対しての経済的圧迫をするようになったわけでございます。

このことにつきましては、商工業者をはじめ商工会議所さらには勤労者を中心いたしました、安房地区労働組合等について再々の要望等があったわけでございます。さきの議会におきましては、この点について請願書の決議という形でもつてその内容が決議されたわけでございますけれども、その決議に対してその後いかなる運動が展開されてまいりましたか、その運動の経過についてどのようになつておるのか。お伺いをしたいところでございます。

最後に、給食費の値上げに対して、その値上げ分についての市の補助をいたす意向はないかという点について御質問をいたしたいわけでございます。

福祉行政の推進と相まって本間市政の車の両輪の一翼を担うものに教育費の父母負担というものがあるわけでございます。この点については本間市長さんは保守政治を指向しながらも、革新市政の中においてもなかなか困難であろうと思われるようなところの教育費の父母負担等についてはかなり英断的な決断をもつて行なつてきて、テレビ、新聞等において拍手かっさいを得てきたところでございます。

今回、給食費の値上げにつきましては、かなり政治的な問題が残されるというような観点から千葉県各市町村においても多く

の市において、千葉市をはじめ習志野、教えればきりがありませんけれども、値上げ分について一学期並びに当面の間、経済が安定するまでの間という条件のもとに値上げ分は市費をもって補助するということでもって、三月議会、その後の議会の中において処理されてきておるわけでございます。

従来から申すれば、本間市政において、すなわち館山市政の中においてはこのような父母負担になるようなものについてはまっ先に先頭をきって行なってきた傾向があるにもかかわらず、今回においてはこの給食費の値上げについてはそうしたところのものが行なわれてないわけでございますけれども、今からでも遅くないわけでございまして、これらについては他の市町村にならうて、私は決断されることが非常に賢明なことだろうというふうに思うわけでございます。

一昨日の条例の提案の中におきましても、印鑑証明の発行の代理人選任の専決処分等についても他の町村が行なったと同時に館山市も乗り遅れてはならないということで、六月一日から議会の議を経ないままに専決処分をして、市民の負担を軽減しようというような英断がくだされている中において、この点については私は非常に惜しまれる点でございまして、この点について今後いかにように考えるのか。今までこうした流れの中において、給食費の値上げの市費補助を流れの上のってできなかったのつびきならないうところの経過、原因がありましたら、被歴していただきますことをお願いいたします、私の質問にかえさしていただきます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 辻田議員さんの御質問に対しましてお答え

をいたしたいと存じます。

まず、福祉都市宣言についてでございますが、その内容は皆さま方の御理解、御協力によりまして、老人、幼児あるいは学用品の負担軽減いろいろ実施をしております、またこれは私がただ説明するんですが、日常品の水道も大体九〇％はここでき上って作名水道ができれば満点というようなことでもあるし、道路も四カ年計画で道路の舗装整備も大体終わったわけでございまして、この際、やはり市民にこういうことをよく知ってもらってなお今後、辻田さんからお話しのように勤労者とか、あるいは婦人ですか、いろいろ福祉をだんだん積み重ねてもっともっと充実をはかろう。こういうわけでございます。

今、これは福祉と言えないでしょう。勤労者に対する助成とかあるいは婦人会に対する助成等は現在やっておりますことは御承知のとおりでございますが、とにかく現在の福祉行政を市民によく承知してもらって、そうして今後一そうもっと積み重ねをして福祉をはかろう。こういうことが、この福祉都市宣言のことでございます。

ただいま、辻田さんからおしかりを受けましたが、議会を通さないというようにすることで私もその点については皆さま方に深くお詫びを申し上げたいと存じます。

その次のシビルミニマムというんですか、私にはむずかしくてわからないけれども、住民の最低限の生活基準とかいうようなことだそうでございますが、これは住民はだれでも安全で、豊かで、健康な生活をおくるようにすることが当然のことであります、これについては今基本構想、基本計画を策定してその中にくわし

いことを盛り込んでまいりたいと考えておりますので、これは委員の方々もきめていただいたし、これから検討するわけですが、その中でひとつ御承知おきをいただきたいと存じます。

それから、国鉄のダイヤはおおせのとおり、まことに金ばかりかかるようなことをされて困るわけでして、その当時も行つて話しましたし、その後も館山駅の改善等の場合にも行つてよく頼んだんですけれども、なかなかやつてくれないわけです。これは会議所でも行つてゐるわけですが、なお今後も引き続き要望をして実現をはかりたいと考えておりますので、御了承願いたいと存じます。

次に、給食費の値上げの關係でございますが、私も辻田さんにおっしゃられるまでもなく、当時これは何とかしなくちゃいけないと考えましたけれども、なかなかすぐというわけにいかないままになっておりますが、その中でも光熱水費等約一千万ぐらゐのものは公費、地方公共団体が負担してゐる。その部分だけでも軽減されてゐるというわけでございますが、これはやはり今後の財政事情を考へて、辻田さんのおっしゃる通りにやはりできるだけこれを市が助成をしていくべきだと私は考へておりますが、今後の研究課題として御了承をいただきたいと存じます。

以上、簡単でございますが、また御質問にお答えいたしたいと思ひますが、よろしくどうぞ。

〇九番（辻田 実君） 最初に、二点ほど再質問をいたしたいと思ひます。

まず第一点は、福祉都市宣言をいたすにあたりまして、経過の説明については十分というか、納得したというわけでもござい

せんけれども、しかしながら、これは見解の相違ですから今の時点でどうこうということはございせんので、経過はわかりましたので、今後運営の中でもつてする以外にないと思ひます。

しかしながら、次の点についてはどうなのか。まずお伺ひしたいと思ひます。

まず第一点は、勤労青少年福祉法というのがあるわけでございますけれども、この四条の中に「国並びに地方公共団体は勤労青少年の福祉を増進するようにつとめなければならない」というふうになってゐるわけでございます。と同時に、五条の三項の中に「国及び地方公共団体は、勤労青少年の日において、その日の趣旨にふさわしい事業が実施されるように努力しなければならない」と、このようになっております。勤労青少年の日というのは御承知のように七月の第三土曜日ということになってゐるわけでございます。この七月の第三土曜日には青少年福祉法によるところの福祉の行事をやる予定があるのか。福祉都市宣言をするにあつて、今までやってなかつたように思われるんですけれども、こうした行事なりを市で行なう予定があるのかどうかということについてまずお伺ひしたいわけでございます。

合わせて、これと同じような趣旨のものでございますが、勤労婦人福祉法という法律があるわけでございます。これの第四条にも同じようなことが書いてございます。そうして、十二条については「国及び地方公共団体は、勤労婦人に対して、勤労に従事する者としての教養の向上、職業生活と家庭生活との調和の促進等に資するため、必要な指導、相談、講習その他の措置を講じなければならぬ」ということが書いてあるわけでございますけれど

も、こうしたところの青少年、婦人問題について、さしあたって今まで福祉宣言がなかったからやらなかったということではないでしょうけれども、このほか、いろんな体育振興法等に基づいてやらなければならないものについて、やらなかったものがあるわけです。必要義務ということじゃなくて、やらなければならぬという指導的な法律でございますので、違反云々ということはないですけれども、この福祉都市宣言にあたって、こうしたところの婦人、青少年に対するところの法律に基づくところの福祉行政福祉施設、そういった福祉に対するところの講習、指導、施設こういったようなものについての第一歩ともいえるようなスタートというものは考えられておるのか、どうなのか。この点についてまた今言いました法律以外のものについても、この福祉都市宣言に基づいて目新しいものというところ、いい方が無責任でございますけれども、新しい福祉都市宣言をしたにふさわしいような福祉政策の内容というのか、具体化の第一歩というようなものは、そういうようなものは、ことば、啓蒙以外のものに何かあるのか、考えられるのか。この点についてお伺いしたい。

この点は、なぜかといいますと、福祉宣言をして広報とかあらゆる方法で宣伝するわけでございます。それについて市民から、議員はそれぐらいのことは知っておるだろうということで質問を受ける。いろんな問い合わせなんかによって、宣言はしたけれども、内容は何かわからないということであって、私は議員としての地位、権威そういうものが保たれない。そういう懸念があるので、そうした点について市長さんは先ほどの答弁の中でも、なかなか消極的で、今までの実績を市民に云々ということ、そ

れだけであれだけりっぱに十九日の都市宣言の式典が、どの程度の式典やられるかわかりませんが、その規模の内容と、そのときの状況等をお伺いして、お話をいただきたいというふうに思っております。

それから次に、国鉄急行列車のダイヤの推進についてですけれども、五月二十一日私たち地区労の代表が四人ほど国会並びに千葉鉄道管理局を訪ねたわけでございます。特に、国会におきましては、第一議員会館におきまして国鉄総裁国会担当課長という方にお会いいたしました。一時閑余にわたりましていろいろお話しした中におきまして、私たちの状況を理解してくれました。できるだけ意にそうように早急にはかりましょう。こういう答弁がありました。この中でもって明らかにされたことは、国家公務員法、地方公務員法の中において、国家公務員法においては四〇〇キロ以上距離がないと特急料金を払えないということが第一点、館山の旅費条例の中においても二〇〇キロ以上でつかのもののについてでなければ特別料金が出せないということでございますから市の職員が千葉に出張している場合には、特急を利用した場合に相当な負担が課せられているんじゃないか。その点はどう処理されているのか。それについての財政負担の額が相当額にのぼっているんじゃないかというふうに思われるわけでございますけれども、この点を明らかにしていただくと同時に、さらに千葉鉄道管理局においては総務部長並びに旅客課長等と会いまして、来年の三月頃に予定されるダイヤ改正の中では快速等の七時、八時台の乗り入れ、千葉発一七時台の列車の乗り入れについてできるだけ協力しましょうと、こういうかなり核心のあるところの話合い

そうして約束をしてきたわけでございます。

そのときに、千葉の管理局において五、六人のおえら方がおりましたけれども、もう急行列車の話は立ち消えたと思つたんですけれども、また再燃したんですかというおことばがあつて、この前の議会でもって採択されたばかりですという。こういうような話もありましたので、いまひとつ市当局においても、市自身もたいへんな負担があると思ひますので、これについて市民ぐるみでもって今この時期が一番機が熟しているというような心証を得ましたので、官民一体ということばがありますけれども、この時期にひとつ市も全力をあげて、ばかにならない予算が使われるかまた職員に負担が課せられておるので、一気に快速の実現に努力していただきたいと思ひますけれども、そこらへんの意向もひとつお伺ひしたい。

以上、三点について再質問いたします。

○商工観光課長（鈴木 力君） 勤労青少年の日の行事といたしましては、県におきまして県内全般的な行事を県におきまして行なつておるわけでございます。市といたしましては、いわゆる七月の第三土曜日でございますが、この日には予定しておりませんで十一月頃勤労感謝の日前後に勤労青少年のつどいということで皆さま方にお集まりいただきまして、意義あるつどいを開催したい。このように予定しております。

○助役（畠山 伝君） 福祉都市宣言と申しますか、それは前回申し上げましたように、六月十九日の九時から十時三十分までを予定しておるわけでございますが、お集まりいただきます方は、御案内申し上げました方は、市の議会の議員さん方、それから市

内の関係機関の長、それから福祉関係の団体の代表者、そうしてまた町内会長さん。以上の方々と約二百六十名程度御案内申し上げてあるわけでございます。

いろいろこれにつきましては、先ほど市長申し上げましたように、今までも皆さん方の御指導、御協力によりまして、この福祉推進でまいっておりますけれども、ここでもたひとつ決意を新たに、みんなでひとつ住みよい社会をつくつていこうといううな願いをこめておるわけでございますが、そういうようなことで大体この程度の規模で、市長から趣旨のあいさつを申し上げます。それから館山市内の福祉の現況と申しますか、というふうなものを御報告申し上げて、それで宣言というふうな形で進みたいと考えておるわけでございます。

それから、国鉄の時間帯の急行の問題でございますけれども、御案内のように今新幹線はじめスピードアップというふうなことで各地方も、国鉄も推進しておるわけでございますが、私も先般局の旅客課にまいりましていろいろお話し合ひもし、お願いもしてまいつたわけでございますが、いずれにしましても、今年じゅうは秋頃までに例の総武線、あれが御案内のように一番早く開通したのに、電化が一番遅れているというふうなことから、成田から銚子、それから佐倉から成東回りの銚子行、これを今年の秋頃までには完成させると同時に山陽新幹線と申しますか、博多新幹線ともいいますけれども、それをやはり本年中に開通させべく努力中であるというふうなことも聞いたわけでございますが、その時限でまた大きなダイヤの改正が考えられるし、新幹線ができることによってまた配車もできるような形にもなるから、です

から、ダイヤ改正といたしましたは、夏季ダイヤではないんだということでございます。

ただいま、辻田議員さんもお話しにございましたように、その間に快速を何と入れるような形にしたほうが局のほうでも実現しやすいものがあるんだということがあるようでございますので、今後ともいろいろな方向でこの時間帯にいいあれが入るようになつてまいりたいと、そのように考えております。

○財政課長（長谷川広治君） 特急関係の旅費規定の関係で申し上げますと、旅費規定の中で調整規定というものがございまして、特急に乗って行くという時間帯の場合には特急料金を出していくというような規定がございまして、現在まで出してございます。ただし、行くときだけで、帰りは普通急行で間に合うだろうというところで、大体金額といたしましては二十八万程度から三十三万程度の間ではなからうかというふうに推測をいたしております。

○九番（辻田 実君） 福祉政策につきましてはよりベターにということで、これは本当に反対するとか、対立というものはないわけでございますけれども、議会の議決を経なければならぬというようなことは形式であるかもわかりませんが、しかしここでもって議会の承認を取らなかつたから云々ということでもって別に対立をする意向はございません。他の議員につきましてはどうかわかりませんが、私につきましてはそれらは関係なく、福祉行政そのものが市民のために少しでもなれば、私は都市宣言そのものがどういう形で宣言されようと、そのことがプラスになるということならけっこうだと思つてでございます。

しかしながら、一つの形、形式的にも内容的にも議会の理解と

協力を得たほうが私はより市民に対して重要だ。また福祉の利益というものが高まるんじゃないかというふうに思つてございまして、十九日の招集そのものが、いろいろなそういう問題があるうとも、私自身もただいま答弁の中で十分とはいひませんのでやはり時期が前とか、あととかでなく、市長と議会と一体となつて福祉推進のために進めていきたいという形が取りたいと思つてでございます。

ですから、したがいまして、のちの時期を見てやはりこの新しい都市宣言にまつわるところの議会また議員の了解、そういう点をもっと深めていったらいいんじゃないかというふうに思つてございまして、きょうは通告質問の中の討論でございますのでそうした点を残しながら、今後これらの問題を課題といたしまして、私の質問を打ち切りたいと思つたので、今後ともよろしくお願ひをいたしたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による一般質問を終わります。

休 会

○議長（吉田勇治郎君） この際、おはかりいたします。

議案審査のため、明六月十五日及び十六日の二日間休会いたします。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、明六月十五日及び十六日の二日間休会することに決しました。

散

会 午後二時二十分散会

〇議長（吉田勇治郎君） 本日の会談はこれにて散会いたします。

次会は、六月十七日午前十時開会いたします。その議事は各議案の内容審議といたします。

〇 本日の会談に付した事件

- 一、行政一般通告質問
- 一、休会

